

第3学年 国語科学習指導案

- 1 単元名 目的に合わせておたがいの考えを話し合おう
～山小屋で三日間すごすなら～

2 単元の目標

- ◎考えを比較・分類する方法を理解し、使うことができる。 【知識及び技能（2）イ】
◎目的や進め方を確認して話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめることができる。 【思考力、判断力、表現力等A（1）オ】
○学習の見通しをもち、互いの意見の共通点や相違点に積極的に着目し、相手の考えを尊重しながらグループで話し合うことができる。 【学びに向かう力、人間性等】

3 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
比較や分類の仕方を理解し使っている。 ((2) イ)	「話すこと・聞くこと」において、目的や進め方を確認して話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して考えをまとめている。 (A (1) オ)	- 互いの意見の共通点や相違点に積極的に着目し、相手の考えを尊重しながら学習の見通しをもって、グループで話し合おうとしている。 - 話し合いを振り返り、これからの学習活動や日常生活のさまざまな場面で生かそうとしている。

4 単元について

(1) 本単元で行う言語活動と扱う学習材について

本単元では、学習指導要領「話すこと・聞くこと」における言語活動例「ウ 互いの考えを伝えるなどして、グループや学級全体で話し合う活動」を受けて、少人数グループでの話し合い活動を設定する。

「山小屋で三日間過ごす」という学習材は児童にとって魅力的であり、自分の考えをもちやすい話題である。目的を確認した上で一人一人が意見をもち、友達と一緒に「考えを広げる話し合い」と、数ある意見から目的に合わせて洗練していく「考えをまとめる話し合い」の両方を経験する。

「考えを広げる話し合い」では、互いの考えを聞き合い、それらを分類し、整理する。「考えをまとめる話し合い」では、整理された意見をもとに、自分の考えを伝え、相手の意見を聞き入れ、折り合いをつけていけるようにする対話スキルを身に付けられると考える。最後に学習を振り返ることで、今後の学校生活においてさまざまな場面で話し合いの経験を生かしていけるようにしたい。

(2) 本単元で身に付けさせたい力

本単元を通して、話し合うための基本となる力を身に付けさせたい。まず必要となるのは、相手の話を聞く力である。相手の意見を大切に扱い、共通点や相違点に着目しながら聞き、内容を理解できる力を身に付けさせたい。また、相槌を打つなど、意見に対して反応しながら聞くことを習慣付けることで、話し手が話しやすくなるだけでなく、相手に伝わっているかどうか確認もできると考える。次に必要となるのは、自分の考えを話す力である。そのためには、自分の考えをしっかりとつことが大切である。そして、相手の反応を見て自分の考えが相手にきちんと伝わっているかどうか確認しながら話す力を身に付けさせたい。

そうして、互いの意見を尊重しながら目的に応じて話し合いをすることで、実生活でも自分の考えを言語化して伝え、対話によって問題解決していこうとする、コミュニケーションの力を身に付けられるようにしたい。低学年では相手の発言を受けて話をつなぐことが中心だったが、中学年になると、目的や進行を意識して話し合い、互いの考えについて検討していくことが求められる。その第一歩として、話し合いには「考えを広げる」「考えをまとめる」という段階があり、それぞれに適した進め方があることを本単元で押さえたい。今回は特に司会を立てずに自由に話し合いを進める。その際に話し合いで大事にすべきことを意識し、目的に沿った発言をしているか、話し合いの段階に合った進行となっているかについて互いに確認するようにしたい。また、一過性の活動とならないよう、目的や進め方を共有して話し合うことの大切さを実感させ、日々の話し合い活動に生かせるようにしたい。

(3) 単元の目標を達成するための手立て

本単元で扱う、“山小屋で三日間過ごすために持っていきたいものを考える”という題材では、誰もが自分の考えをもちやすいと思われる。したがって、普段から授業内容の理解に自信がなく、自分の考えをもちにくい児童においても楽しく参加できると考える。また、自分の意見をクラス全体に発表することが苦手な児童も、3～4人の少人数グループでの対話であるため参加しやすいと考えられる。

出された意見を整理する方法は、まずは各自がワークシートに、したいことやそのために必要な物を思いつく限り書き、その後、付箋に書き出す。なるべくたくさんの活動や持ち物を書けるよう、季節ごと、時間ごとの様々な山小屋の絵や写真を提示することで話題に対する理解を深め、発想を広げられるようにする。また、後の話し合いで意見として話せるように、自分がしたいと考える活動のよさや楽しさ、そのために必要な物の便利さや必要性などについても書いておく。ただ単に「したいから」と言うのではなく、客観的な理由を話すことによって他者の共感が得られたり、対話を広げたりできるようにしたい。次に、考えを広げる話し合いを行うが、話の流れを示すことで全員が理由と共に考えを述べ、グループごとにホワイトボード上に貼り付けていく。同じ意見は、重ねて貼り付ける。整理する際には、したい活動を昼・夜のいつ行うかで仲間分けをしたり、同じ持ち物が含まれる活動についてはベン図を用いたりして分類する。共通した持ち物がある活動は近くに貼り付けるようにし、考えをまとめる話し合いのときに考えやすいようにする。基本的には自分で書いた付箋は自分で動かしていくが、黙って動かすのではなく、考えや理由を述べて対話しながら動かすようにする。その際、なるべく多くの意見を出せるようにする。決して友達の意見を否定せ

ず、共感できない場合でも「なぜそう思うのか」「活動のよさは何か」などと質問し合い、話を広げる。また、なかなか話せない児童がいた場合には、「〇〇さんは何がしたい？」「なぜそう思ったの？」と、周りの児童が問いかけて聞き出すようにする。

考えをまとめる話し合いについては、はじめにしたいことは何かを互いに聞き合う。その後前時に貼った付箋の重なりやベン図の重なっている部分の持ち物も参考にして話し合う。活動が増えるとそれぞれの活動で持って行ける物が減り、活動の種類が減るとその活動に必要なものは多く持って行けるが、三日間限られた活動しかできなくなる。そこで、活動をいくつするか話し合ったり、同じ持ち物ではかにできる活動が見つければ書き足したりしてもよいこととする。それぞれの考えを出し合うなかで、5つの持ち物でより多くの活動ができるように考えたり、限られた活動を深められるようにしたりして、みんなが楽しめるような持ち物を5つ選ぶようにする。仮に意見が分かれた場合でも、活動や持ち物のよさについて話すことで折り合いをつけるよい経験になると考える。

単元を通して毎時振り返りを行うが、その際にはルーブリックを用いる。望ましい姿の基準が明確になることで、何をすればよいか分かりより意欲的に活動できると考える。

話し合いの指導については、日々の根気強い指導が必要である。土台づくりのために、ただ話す力を身に付けるだけでなく、話し手が安心して話せるよう、話しやすい雰囲気作りをするためにも相手の話を聞く力を身に付けることは大切である。話し手の方を向いて聞くなどの態度の指導だけでなく、話の中心や内容を落とさずに聞く力を身に付けられるようにしたい。そのために、普段から話が終わった後に「何を話したか」や「大事なことは何か」を問いかけるようにし、内容がきちんと聞いているかを確認していく。また、話に対する自分の考えを聞いたり、話のよかったところを聞いたりすることを繰り返すことで聞く力が育っていくと考える。また、聞くときには頷いたり相槌を打ったりして、意見に対して反応しながら聞くことを習慣付けることで、話し手が話しやすくなるだけでなく、相手に伝わっているかどうか感じ取ることができるようにしていく。話す力については、自信をもって話をする児童が少ないことから、まずは声が出せるよう返事をはっきりすることや、授業の始めに誰でも分かる簡単な質問をしたり音読をしたりすることを繰り返していく。決まっていることや発言しやすい事柄であれば、自信をもって話すことができる児童も増えると考ええる。また、自分の意見をもてなかったり、自信のなさから意思表示することをためらったりする児童も多いため、挙手をさせて意思を表明する機会を国語以外でももつようにする。意見を言う際には「〇〇です。なぜなら～だからです。」など、理由とセットで話すようにする。また、意見に対して反応をすることを継続的に指導し、意見に対する意見を繋いでいけるようにする。例えば質問する際には「なぜそう思ったのですか。」「例えばどんなことですか。」など、質問の型を示したり手本を示したりする。ペアやグループなどの少人数であれば話をしやすいと考えられるため、授業の始めなどにペアトークを取り入れる。また、共通点や相違点を見つけるための話題を設定して話し合いを行い、他教科においてベン図を使って分類する機会を設ける。今回は実際の付箋を用いて分類するが、今後ギガタブの Jamboard を用いて意見を整理する際には、この経験を生かして活動できると考える。

5 指導計画（4時間扱い）

時	学習内容	指導上の留意点（○）と評価（◇）
1	○単元の学習のめあてを確かめ、学習の流れを確認する。 ○話合いの目的や条件、話合いの仕方を確認する。 ○各自で、したいことやそのために必要な物を考えて、ワークシートに書き出す。 ・後の話合いで意見として話せるよう、したいことのよさや楽しさ、そのために必要な物の便利さや必要性についても書く。 ○ワークシートに書いた考えを、付箋に書き出す。 ・誰の意見か分かるように、グループの人ごとに色を変えた付箋に、したいことやそのために必要な物を記入し、自分の画用紙に貼る。 ・したい活動は大きい付箋に書く。必要な物は、小さい付箋に書いた後、したい活動の付箋に付けておく。 ○振り返りをする。	○季節ごと、時間ごとの様々な山小屋の絵や写真を提示することで、意欲を引き出すとともに、話題に対する理解を深め、発想を広げられるようにする。 ○考えを書けない児童には、普段好きな遊びを聞いたり、山小屋で昼間や夜にできることを想像させたりして、考えを広げられるよう助言する。 ・「したいから」「持っていきたいから」と書いている児童がいたら、なぜしたいのか問いかけて、客観的な理由として書けるようにする。 ◇目的や進め方を確認し、見通しをもって話し合おうとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 (記述・観察) ○ループリックを提示し、印をつけたり感想を書いたりできるようにする。
2	○前時を振り返る。 ○考えを広げる話合いのときに大事なことを確かめ、グループで考えを広げる話合いをする。 ・話の流れを参考にして、全員が発言する。 「○○さんは、どんなことをしたい？」 「私は、虫取りをしたいから、虫かごとあみを持っていききたいな。」 ・なるべくたくさんの考えを出す。 ○意見を整理する方法を学ぶ。	○前時を振り返り、目的や条件をもう一度確認する。 ○話合いの目的を確認し、考えを広げる話合いの流れを掲示物やプリントで示す。 ・付箋に書いた意見について、前時のワークシートを見ながら理由や活動の楽しさを話せるようにする。 ・ただしたい事を話すだけでなく、相手に「やってみたいな」「なるほど」などと共感してもらえるように、メモを参考にして話すよう助言する。 ・今は内容を絞る段階ではなく、相手の意見を否定しないことを確認する。 ○分類の仕方については、具体的に示す。

	・活動する時間帯で分類し、共通する持ち物があればベン図を用いてもよいことを確認する。 ○出た意見を整理し、分類する。 ・話合いの途中で、付箋を書き足してもよい。 ○話合いを振り返り、ワークシートに記入する。	・分類の仕方は、主に活動する時間帯によって仲間分けをする。共通した持ち物が入っている場合には、ベン図を用いてもよい。また、似ている活動は近くに置く。 ◇出た意見を目的に沿って比較・分類して整理している。【知識・技能】（記述・観察） ○ループリックを提示し、印をつけたり感想を書いたりできるようにする。
3 本 時	○考えをまとめる話合いのときに大事なことを確かめる。 ○グループで考えをまとめる話合いをする。 ・はじめに、全員が一番したいことを話す。 ・したい活動をいくつにするか考える。 ・活動に必要な持ち物を考える。 ・安易に多数決をせず、付箋の重なりやベン図の重なりの部分にも着目する。 ・友達の意見を聞いて、考えを変更してもよい。 ・決まった活動と持ち物の付箋には印を付ける。 ・決まった物と理由を班ごとにワークシートに記入する。 ・なるべくグループ全員の意見を取り入れる。 ・同じ持ち物で、ほかにできる活動がないか考える。 ○話合いを振り返り、ワークシートに記入する。	○話合いのときに大事なことを提示する。 ○1グループにつき5つの持ち物を持っていけることを確認する。 ○前時に分類したものをしながら、付箋の重なりやベン図の重なりの部分に着目することを伝える。 ・話せない児童に対しては、グループのメンバーが聞き出すよう声かけをする。 ・早く決まったグループには、皆がより楽しめるよう、決まった持ち物で他の活動ができないか考えるよう伝える。 ◇話合いの目的・条件や進め方を理解して話し合い、共通点や相違点を確認しながら考えをまとめている。 【思考・判断・表現】（発言・観察） ○ループリックを提示し、印をつけたり感想を書いたりできるようにする。

4	○話合いで決まった持ち物と、話合いの時の様子を報告する。 ・持ち物、選んだ理由（したいこと）、話合いでうまくいったこと、うまくいかなかったことの4点を報告する。 ○単元全体を振り返り、感想を書く。 ・全員が意見を言えたかどうか、全員が言えるように工夫したかどうかを振り返る。 ・考えを広げたりまとめたりする話合いにおいて大切なことをまとめる。 ○感想を発表する。	○発表する内容については、前時に記入したワークシートをもとに話せるようにする。 ○話合いを振り返り、ワークシートに記入する。 ◇話合いを振り返り、これからの学習活動や日常生活のさまざまな場面で生かそうとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 (発言・記述)
---	---	--

6 本時の指導 (3/4時間)

(1) 本時の目標

○目的や進め方を確認して話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめることができる。

【思考力、判断力、表現力等A(1)オ】

(2) 本時の展開

主な学習内容と活動	指導や支援の手立て (◇評価)
1 学習課題を確認する。	○前回の話合いで広げた考えについて、話し合いをして五つに絞ることを伝える。
グループで話し合っ、山小屋に持っていくものを五つ決めよう。	
2 考えをまとめる話合いのときに大事なことを確かめる。	○進め方や気を付けることが分かるよう、話し方や流れについて掲示したり、配付したりする。
・なるべくグループ全員の希望を取り入れる。 ・全員が考えを言う。なかなか話せない友達がいたら、聞き出す。 ・多数決ではなく、話し合って考えをまとめる。	・始めに、一番したいことについてそれぞれが話すようにする。その後いくつかの活動をするか話し合い、持ち物を考えていく。前時に分類した付箋を見ながら、付箋の重なりやペン図の重なりがあれば参考にする。 ・同じ持ち物で他にできる活動が見付かれば、新たに付箋に書き足す。
3 前回の話合いで出た、付箋に書かれた意見を見ながら、グループで考えをまとめる話し合いをする。	○3～4人のグループに分かれて、考えをまとめる話し合いができるようにする。
話し合いの様子をギガタブで録画する。	・話せない児童がいれば、グループの他の児童が話しかけて聞き出せるようにする。また、教師が付箋やノートメモを見ながら、「星のかんさつをしたいか

取りはした方がいいと思うな。」 「川遊びには水着は必要なのかな？なくても遊べると思うよ。」 「虫取りあみがあれば魚とりもできるね。」 「〇〇さんは、何が一番したい？」「なぜそう思うの？」 「トランプは、しぜんとふれ合う活動ではないから持っていけないよ。」 「なるほど、チャッカマンを持って行けば、バーベキューだけじゃなくてキャンプファイヤーにも使えるね。」 ・決まった持ち物とその理由を、グループごとにワークシートに記入し、発表できるようにする。 4 グループで話し合いを振り返る。 ・どのような理由で、山小屋に持っていきたいものを決めたのかを確認する。 ・2回の話し合いを振り返り、うまくいったことやうまくいかなかったことを出し合う。 5 学習の振り返りをする。	ら、ぼうえんきょうをもっていきたいな」「虫取りよりも川遊びをしたいな」「マッチは火を使う活動がいろいろできるから持っていくとべんりだと思うな」などと、傍で手本を示し、言えるようにする。 ・3－1の教室で行うグループと、3－2の教室で行うグループとに分け、2か所で同時に行う。 ◇話し合いの目的・条件や進め方を理解して話し合い、共通点や相違点を確認しながら考えをまとめている。 【思考・判断・表現】（発言・観察） ○次回は、グループごとに決まった持ち物や理由、話し合いの結果についてクラス全体に報告することを知らせる。 ○ルーブリックを提示し、印をつけたり感想を書いたりできるようにする。
--	---

7 板書計画

やくそく

- ・全員が意見を話す。
- ・グループ全員の意見を取り入れる。
- ・話し合いで決める。(多数決は×)

ここに
注目!

考えをまとめる話し合い

- ・目的にそって、大事なことの順番を考える。
- ・多くの人が大事だと考えたものを選ぶ。

山小屋のイラスト

〈持ち物の決まり〉

- ・食料、水
- ・着がえ

グループで話し合って、山小屋に持っていくものを五つ決めよう。